

本校での授業実践 (補聴器のプログラム機能について)

小学部四年生の自立活動の時間に補聴器のマイクの指向性（正面からの音声を聞き取りやすくする機能）について、勉強しました。

教室の後ろからスピーカーでざわざわとした雑音をだし、その状況下で指向性の機能をオン（前方からの音を取り入れる）、オフ（全方向からの音を取り入れる）にすると、前で話している先生や友達の声の聞こえ方にどのような違いがあるかを考えました。

感想

- (指向性オンの時) ・雑音がましになった。 ・先生の声が聞き取りやすくなった。
- ・先生の話聞き取れた。
- (指向性オフの時) ・雑音が大きかった。 ・雑音がうるさかった。
- ・先生の声より雑音の方が大きかった、聞き取りにくかった。
- (全体を通して) ・音が変わるのが楽しい。 ・また使おうかなと思った。
- ・給食室でこのしくみを使ってみたいと思った。

また、この授業の後には授業参観、ざわざわとした食堂の中、地域の交流先の学校などで実際に使ってみて、その効果を感じることができているそうです。（文責 井上）

中学部3年生でも自立活動の授業で補聴器のマイクの指向性について学びました。小学部と同じように雑音がある環境下で指向性の機能のオン・オフを体験したり、どのような場面で使用するのが適切か考えたりしました。

また、補聴器を装着していない生徒も口形をよく見てわかった単語を答えたり、友だちの感想を聞いて補聴器について学習したりすることができました。



感想

- (指向性オンの時) ・雑音の音が小さくなり、話がわかった。 ・先生の声も雑音も小さくなった。
- (指向性オフの時) ・雑音が気になり、声が聞こえなかった。 ・先生の声も雑音も大きくなった。
- (全体を通して) ・違いがわからなかった。 ・指向性がオンだと似ている口形でもわかった。
- ・補聴器が進化していることを知った。

効果を感じられた生徒も感じられなかった生徒もいましたが、指向性だけでなく補聴器のデジタル機能を状況や場面に応じて自ら判断し使い分けていくことができれば、その時々自分に合った最適な聞こえを保障できると思います。これからの生活に是非活かしてほしいです。（文責 山中）

～補聴器の冬のメンテナンス～

少しずつ風が冷たくなり、秋らしくなってきましたね。

今回は6月号の夏のメンテナンスに続き、冬のメンテナンスについてご紹介します。



○結露に注意

・寒いところから暖かい部屋に入ったとき、補聴器から音が聞こえなくなることがあります。寒暖差により、補聴器のチューブやフックに“結露”が生じることがあるからです。

- ①チューブ、イヤモールドを外して軽く振り、水滴を飛ばしましょう。
- ②ティッシュをねじってこよりを作り、チューブに通して水滴を拭き取りましょう。
- ③水滴が蒸発するまでしばらく待ちましょう。

○電池に注意

・空気電池は、表面（+面）にある穴から空気を取り入れて電気を作ります。そのため、寒いところでは発電しにくくなります。

- ①補聴器を使う前に電池を手で温めましょう。
- ②こまめに空気の入れ換えをしましょう。
（火を使う暖房器具の近くで使用すると二酸化炭素により電池内の成分が劣化します）
- ③湿度が極端に低くなりすぎないようにし、電池残量も定期的にチェックしましょう。
※空気電池を乾燥ケースに入れられないのもこのためです。

○静電気に注意

・補聴器、人工内耳は精密機器です。そのため外部からの大きな電圧がかかり、壊れることがあります。

- ①静電気が起きやすい衣服の素材（フリース、毛糸のセーターなど）に注意しましょう。
- ②着替えの時など、静電気がおこりやすそうなどときには、人工内耳のスピーチプロセッサを外すようにしましょう。

〔新しい補聴器のご紹介〕

フォナック・ジャパン株式会社より、新しく障害者総合支援法の重度難聴用に対応する「skyL30-UP」という補聴器が発売されました。

以前までの「skyB30-UP」では、Bluetoothの使用ができませんでしたが、今回新しく発売された「skyL30-UP」では、Bluetoothの使用が可能になり、スマートフォンとの接続もできるようになりました。そのことにより、スマートフォンからの音を直接ストリーミングすることもできます。動画や音楽を楽しみたい方にはおすすめの機能です。

また、ロジャーを使用する際も外部受信機をつけずに、ロジャーマイクロホンの音声を直接受信できる「ロジャーダイレクト」も搭載されています。補聴器本体の色のバリエーションも増え、選択肢も広がりました。

詳しくは、フォナック・ジャパン株式会社のホームページを見ていただくか、補聴器販売店におたずねください。



画像提供：フォナック補聴器出典